

令和5年3月31日

石巻市議会議長 安倍 太郎 殿

会 派 名 ニュー石巻
代表者氏名 会長 大 森 秀 一

調 査 報 告 書

調査した概要は次のとおりであります。

記

- 1 調査者氏名 大森秀一、遠藤宏昭、丹野清、高橋憲悦、阿部浩章、
千葉正幸、奥山浩幸、楯石光弘、佐藤雄一、早川俊弘、
木村美輝、勝又和宣、原田豊
- 2 調査期間 令和5年3月28日 1日間
- 3 調査地 (1) 石巻市鮎川浜
及び調査内容 ・おしか家族旅行村オートキャンプ場について

(2) 女川町塚浜
・女川原子力発電所2号機の安全対策工事について
- 4 調査目的
(1) おしか家族旅行村オートキャンプ場
・おしか家族旅行村オートキャンプ場について
おしか家族旅行村オートキャンプ場は、自然の中で健全な観光レクリエーションを楽しむ場を確保し、自然との調和を図りつつ健康と福祉の増進併せて観光産業の振興に資するための施設であり、平成28年4月から指定管理者として太平ビルサービス株式会社が管理している。
おしか家族旅行村オートキャンプ場の視察を行うことで、今後の交流人口拡大に向けた観光振興などの本市事業推進の参考とする。

(2) 女川原子力PRセンター
・女川原子力発電所2号機の安全対策工事について

女川原子力発電所 2号機は、令和 5年 11月の安全対策工事完了を目指す安全対策工事が最盛期を迎え、停止中のプラントの安全確保を徹底した安全対策工事の作業安全確保と工事計画に沿った進捗等に努めている。

原子力規制委員会における審査では、保安規定変更認可申請ならびに特定重大事故等対処施設の設置に向けた原子炉設置変更許可申請について新規制基準適合性の審査が継続して行われている。

女川原子力発電所 2号機の安全対策工事状況の視察を行うことで、再稼働に求められる安全性の現状等について確認する。

5 調査概要・所感・調査による石巻市への政策提言等について

(1) おしか家族旅行村オートキャンプ場

・おしか家族旅行村オートキャンプ場について

◎視察概要

本市鮎川浜駒ヶ峯に位置する「おしか家族旅行村オートキャンプ場」の現状を確認するため、会派行政視察を実施する。

平成 28年度から指定管理者による運営を行っている施設である。

公設民営化によるメリット・デメリットを把握して、今後、「公の施設」の運営方法を議論する。

牡鹿総合支所から支所長はじめ担当職員 4名が同行する。また、指定管理者である「太平ビルサービス株式会社石巻営業所」の担当社員から、リーフレットに基づき説明を受ける。

施設営業中のため複数の利用者がある中、時間を割いて視察に同行・説明してくれた太平ビルサービスの社員には、心から御礼を述べたい。

◎所感・提言

霊島・金華山が一望できる絶好のロケーションである。空気もきれいだ。

施設の名前通り、キャンパーはもちろんのこと、家族連れが何度も足を運ぶ理由がわかった気がする。

指定管理者の経営努力により、テントエリア（個別サイト）及びキャビンエリア（ケビン棟）ともに通年営業していることが、利用者の増加に結びついている。

東日本大震災の地震被害により 2年間（平成 23・24年度）の休業はあったが、平成 25年度からは年々利用者が増加傾向にある。平成 28年度から指定管理者による施設運営がはじまると、利用者の増加の伸びが大きくなり、今年度は 1万人に迫る勢いである。

近年のキャンプブームがあるにせよ、指定管理者の経営努力は素直に認めたい。

これまで同様に、牡鹿総合支所との意見交換を継続して行い、課題を整理して、より良い施設運営をお願いしたい。

一点、気になったことがある。ケビン棟の設備についてである。

内線電話が「故障中」になっている。現状、利用者が携帯電話から管理棟に直接連絡してくるので、必要なくなった設備であるとのこと。見栄えも良くないので、取り外してはいかがか。検討をしてほしい。

本市にとって、貴重な黒字施設である。今後も、リーフレットはもちろんのこと、SNSなどを活用したPRを積極的に行ってほしい。

(2) 女川原子力PRセンター

- ・女川原子力発電所2号機の安全対策工事について

◎視察概要

女川原子力発電所2号機は、令和5年11月の安全対策工事完了を目指す安全対策工事が最盛期を迎えている。安全対策工事状況の視察を行うことで、再稼働に求められる安全性の現状等について確認する。

◎対策

1. 地震から守る これまで基準地震動を580ガルに設定（大震災では567.5ガル）してきたが震災後1,000ガルに引き上げた。原子炉建屋の部材の追加・強化をはじめ、配管や電線間のサポート追加を実施するなど、耐震安全性に関する新たな科学的・技術的知見の継続的な収集・分析を踏まえた耐震工事を実施。
2. 津波から守る 最高水位を23.1mと想定し（大震災では13m）、防潮堤を漂流物防護含め国内最高レベルの海拔29mとした。改良地盤・置換コンクリートで総延長800m。
3. 電源を確保する 「止める」「冷やす」「閉じ込める」ためには電源と水が前提。
緊急時の電源確保のため、異なる種類の電源装置を津波のこない高台に配置。燃料の軽油も火災などの影響受けない地下に確保。
4. 原子燃料を冷やす 万が一、電源が失われても燃料の冷却を継続。原子炉や使用済み燃料を安定的に冷やすため、既設のポンプの代替となる注水設備を強化。
5. 事故の影響を抑える 原子炉などの重要機器を覆う原子炉収納容器内に蒸気が漏れ、圧力が上昇した際に蒸気を外部に放出し圧力を下げる設備の設置。
福島第一原子力発電所事故では建屋の水素爆発に至ったための対策。
6. さまざまなリスクに備える 地震・津波以外にも森林火災による炎症の防止や、想定される火山、竜巻などの自然現象、故意の航空機衝突などのテロ行為、サイバー攻撃による破損などの防止のため様々な対策。
7. 訓練の充実・強化 緊急時における発電所員の対応力向上のため、事故の収束に向けた対策の適格な指示、社内外への迅速な通報連絡、電源や冷却装置の喪失を想定した訓練など、対応訓練を実施。

◎所感

約5,000人の方々が働いていると伺い、前回訪問よりあわただしさがひしひしと伝わってきた。その中でも様々な角度から災害を想定し、何重にも設備の対策を行って、信頼と安全な発電所目指し、努力に努力を重ねていることが理解できた。

ロシアによるウクライナ侵攻など世界的に不安定化が進む中、自分たちが使うエネルギーの自給力を高める事は、食料と共に最も大事で必要な事と改めて感じた。

7 添付書類 別添資料のとおり